

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770101152	
法人名	社会福祉法人 ライフ・タイム・福島	
事業所名	ロング・ライフ フクチャンち	
所在地	福島市伏拝字清水内25	
自己評価作成日	平成24年5月3日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福島県介護支援専門員協会
所在地	郡山市亀田二丁目19-14 チャレンジビル2階
訪問調査日	平成24年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①便秘解消のため、バナナ入りカスピ海ヨーグルトやオリゴ糖入りココアを飲んで頂くことにより自然排便ができる。
- ②利用者様が入院した場合、利用者様の早期退院に向けて、ご家族様や医療機関との連携・相談を密にする為、頻繁に見舞うようしている。
- ③防災訓練を7年以上毎月地域と連携し実施している。東日本大震災時には地域の資源としての役割を果たした。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特に以下の三点が評価される。
 ①地域との密接な繋がり - 民生委員をはじめ地域町会の婦人会、交番、支所、消防団などと交流を持ち、行事に100人を超える参加者が集まったり、震災時などは心配して駆け付けてくれる関係を築いている。②積極的な外出支援 - 平均介護度が3.8にも関わらず平均して月2回以上の外出機会を確保している。その為に体調管理に気をつけたり着る物や化粧など外出を楽しめる支援を行っている。③定期的な避難訓練 - 毎月一回、火災だけでなく地震や水害などを想定し、利用者が参加する形で避難訓練を行うほか、年に二回は消防署や地域住民を巻き込んだ避難訓練の実施および夜間想定の訓練を実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員全員で理念を作成し、毎朝ミーティング前に唱和し、理念の共有をして実践につなげている。	カーデックスの一ページ目に理念を書いておくなど常時目に触れる工夫をしている。職員ヒアリングにおいて具体的な対応例を説明することができた。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会に参加したり、いも煮会や総合防災訓練の際には地域の方々に参加していただき、地域との交流を積極的に図っている。	いも煮会や避難訓練時に地域の方々に来てもらってるだけでなく、地域の婦人会に参加したり町内会へ広報紙を配るなど、事業所から地域への関わりも積極的に行い、地域との繋がりを深めている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いも煮会の時に認知症サポートー養成講座を行ったり、又、中学生の福祉体験を行い、認知症の理解をしてもらえるように取り組んでいる。 東日本大震災に伴い、地域の避難所の役割と今も避難してきた認知症の方を受け入れている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会議にて利用者の状況、行事報告、研修報告を行い、メンバーより率直な意見を頂き、サービス向上に活かしている。	運営推進会議のメンバーの紹介で新しい体験の機会が得られた。また行事等の紹介参加呼びかけを行うことを通して反対に協力の申し出を受けたりしている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	支所、近くの交番に広報誌を配り、交流を深めている。また、総合防災訓練には、地域包括支援センターの職員や消防署や近隣の消防団員の方に参加して頂き交流を図っている。	支所や交番、消防署などに広報紙を配って情報提供をしている。また総合防災訓練には消防団員の方々が参加している。外部評価当日も交番のお巡りさんが事業所へ訪問していた。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、全職員がマニュアルに基づく研修や施設内外の研修に参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人で毎年計画的に行っている研修に全職員が参加して意識化を図るとともに、言葉による拘束も行わないように日々のケアに注意を払っている。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内外研修に参加し、禁止の対象となる内容を理解し、その内容を職員会議等で発表し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が法人や事業所内での発表を聞き、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、それらを活用できるように支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改正時は、家族、利用者へ説明を行い、家族の不安や疑問にはその都度説明し、理解、納得して頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回以上の家族会を開催し要望を広く聞く場をも設けている。又、運営推進会議にも家族に出席をして頂き、その意見を運営に反映させている。	運営推進会議には家族の方も出席してもらうなど家族の意見を積極的に受け取る工夫をしている。今までに家族の意見を反映して施設の段差を解消したりトイレの増設などを実行している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第1木曜日に職員会議を行い、職員の意見や提案を運営に反映させている。 年間4回の面接を行い各職員の目標や意見、提案を聞く場を設け、それを運営に反映させている。	毎月の職員会議で積極的に職員は意見を述べる機会があり日々のケアや事業所の運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、働きやすい環境を作ってくれている。また、目標チャレンジシートを活用し、給与水準など各自が向上心を持って働くような職場環境・条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が法人内外の研修に参加し、一人一人のレベルに合った人材育成に取り組んでいる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO法人福島県グループホーム協議会に加入し、研修にも積極的に参加し、他施設との交流を図っている。又、他県の研修やその他研修にも積極的に参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を活用し、本人の不安な事等に対しての意向をふまえたプランの作成に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族と話し合い、困っている事に対して情報を共有し、意向を取り入れたケアプランの作成に取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、早急に対応すべき短期間のケアプランを作成し、プランの実行をしながら、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事を作ったり、行事の際には風習を教えてもらったりしながら、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	色々な行事にご家族様にも参加して頂き、共に本人と家族の絆を大切にしながら支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容師に来て頂いたり、以前入会していた趣味会の人が訪ねてきたりする馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	馴染みの美容室を継続して利用できるように送迎したり、そこを利用できなくなった場合には事業所の方へ出張してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支えあい、お互い助け合える人間関係を築けるよう声かけや見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた方に来所して頂いたり、訪問して交流をしている。			
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のC-1-2シートを活用し、一人ひとりの本人の希望や意向の把握に努め、本人本位に検討している。	各担当者がセンター方式のシートにプラン更新時に必ず記入し思いや意向を再確認しようとしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族との会話の中から生活歴、馴染みの暮らし方を把握し、センター方式のB-2、B-3シート等を活用して共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック・個別記録を行い、又24Hシートを活用しながら現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の日常の会話やご家族様の意見を取り入れ、職員全員で話し合い、月1回カンファレンスを行い情報共有し、家族、本人の意見をふまえたプランを作成している。	介護計画に基づいて毎日実施の有無をチェックし一ヶ月ごとに担当者が状態をまとめ、それにケアマネと管理者がコメントをつけ最終的にカンファレンスを通してケアプランの更新を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、カーデックスを活用した個別記録や管理表を記入する事で職員間で情報を共有し、ケアプランの見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに対応して、従来のサービスのみでなく、新たに理学療法士が来所し、一人ひとりに合った歩行訓練やリハビリを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を發揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の長年の行事や地域の方々との交流を楽しみ安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が同行する際には医師に身体状況などを伝え、受診結果の情報を共有化し、家族対応でかかりつけ医を受診する時は通院前後の情報の共有に努めている。	提携病院には職員が付き添い、それ以外の病院は家族対応している。どちらの場合でも利用者・家族・かかりつけ医と情報共有がなされるように職員が口頭にて連絡を行っているほか記録をコピーして手渡ししている。	受診用の情報共有シートを作成しチェックしていく形など記入のしやすいものを工夫していいってほしい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し、利用者様の健康上の気になる事を相談しアドバイスを頂いたり、医師との連絡調整にて適切に受診できるよう取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できるだけ頻回に様子を見に行き、ご家族様と共に主治医と話し合いの場を持ち、ご家族様の声を聞きながら早期退院に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応についてはご家族様の意向を聞きながら検討し、職員も看取りについて研修を行っている。 訪問看護ステーションとの連携をとっている。	研修を積み重ね、また訪問看護ステーションとの連携でき、かつ看取りは家族の手伝いをするのだという意識を職員間で共有し、入所時のほか終末期に入ってからも数回にわたり同意書をとり、確認を行う体制になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルはいつでも目を通せるようにしている。定期的に救急法講習を受け、迅速かつ的確な行動が取れるよう実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	7年以上に亘り、毎月15日に定期的に防災訓練を行い、年2回は総合防災訓練を地域の方、運営推進委員会の方、消防団の協力のもとを行い、地域との協力体制を築いている。	毎月避難訓練を行っている。地震や火災など様々な災害を想定して訓練を行っている。訓練には地域の消防団や運営推進委員会の方々にも協力してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員採用時に誓約書を書いて頂き、利用者様に対する話し掛けや対応についても自尊心を傷つけないよう十分留意している。また、法人内外で接遇マナーの研修を行っている。	利用者は人生の先輩として、丁寧な言葉遣いで接することを徹底し、「〇〇しましょう。」ではなく「〇〇しますか」と表現するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	センター方式のD-1シートを活用し、利用者の出来る事、出来ない事を見極めて、本人が自己決定できる場面を作っている。食事の献立作りの際には、利用者の意見を聞き取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に配慮しながらその日の本人の気持ちを尊重して、その人のペースを大切に希望に沿った支援もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝整髪をし、おしゃれを楽しんで頂いている。又、行事や外出の時はおしゃれな服装やお化粧をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には、食事に関連した作業を職員と一緒にを行い、楽しい食事になるよう支援している。また、嗜好調査なども行き、それを献立に反映させたり、バイキングも実施している。	配膳やテーブル拭きを役割として担っている方がいた、また自分のお膳を自分の席まで運ぶほか他者にも運んでいる姿も見られた。介助が必要な方には丁寧に言葉を掛けながらペースや量を加減していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録にて食事、水分量をチェックしている。また、管理栄養士による栄養指導を2ヶ月に一度行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、一人ひとりに合わせた口腔ケアに取り組んみ1分間口腔マッサージを行い、歯科医師の検診により一人ひとりの口腔状態に沿ったケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンをつかみ、なるべくトイレでの排尿、排便ができるよう声かけ誘導することにより、パット、オムツの使用量を減らしている。	本人のサインを読み取り適切な時期に声をかけたり誘うことを通して失敗せずにトイレで排泄できるような支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日バナナ入りカスピ海ヨーグルトを提供したり、オリゴ糖入りココアを飲んで頂き自然排便を促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴剤の種類を変えたり、本人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんで頂いている。	一人ひとりの希望やタイミングで入浴できるように工夫している。また入浴の意欲が湧くように入浴剤を毎日替えたり、声かけに工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気のよい日には布団を干したり、定期的にリネン交換を行い、一人ひとりの生活リズムに合わせ安眠できるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の情報や個々の副作用のリスク管理一覧表を作成し全職員が確認し、正しく服薬支援ができるようにしている。また、処方箋をファイルに綴じ、全職員が直ぐ確認できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる力を活かした役割作りや嗜好調査を行い、その人にあった楽しみ事、気分転換を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気や利用者の状態に応じて、ドライブや買い物などできるだけ外に出る機会を多くし、外出の際には家族にも参加して頂き楽しんで頂いている。	月に一回、事業所全体で外出をしている。外出に合わせて利用者の体調に気を配ったり、意欲がますようにお化粧や服装にも気を配っている。その他、週に二回買物に行く日や、町内会の行事などに参加している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と話し合いながら、外出する時は小遣いを本人に渡し、買い物できるよう支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望でいつでも電話ができたり、手作りの絵手紙を知人に出せるよう支援している。		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間については、快適な生活ができるように温度、湿度など刺激がないようにし、季節に合わせた掲示物の貼り替えなどを行い居心地よく過ごせるように工夫している。	天窓のある共用空間はやわらかい光で落ち着いた雰囲気となっている。季節に合わせてこまめに掲示物を変えるなどして、居心地だけでなく季節感を感じられる空間となっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内のいろいろな場所や、庭園に椅子を置き、また居室を訪問した際に窓いで頂けるよう工夫している。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具や写真、仏壇などを持ってきて頂き、その人らしく過ごせるようになっている。	居室ごとに間取りも違い、それと本人の使い勝手で、ベットの位置を変えるなど一人ひとりの状態に合わせて家具の配置にも気を配っている。使いなれた家具を持ってきてもらい心地よく過ごせるようにしている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーは分かりやすいように日めくりカレンダーを使用している。センター方式のD-1シートを使用し、本人の「出来ること」「出来ないこと」を把握し支援している。		